

日々の暮らしはどうなるの？

あなたが快適な毎日をおくるために

他のHIV陽性の人はどんなふう
暮らしているのですか？

HIV陽性が分かったからといって、これまでの生活の仕方や周りの人とのかわりを急に変える必要はありません。HIVは主に性行為によって感染するもので、それ以外の日常生活で感染することはありません。

病状に応じて、今までどおり学校や仕事を続けている人もいれば、療養中心の生活をしている人もいます。暮らし方はその時々あなたの体力と免疫状態に応じて、決めていきましょう。

日常生活ではどんなことを
心がけるとよいですか？

HIV陽性だからといって、特別な生活

があるわけではありません。HIV陽性か否かにかかわらず、一般によいといわれている生活スタイルを、あなたの暮らしにも取り入れるとよいでしょう。

より健康な生活のポイント

- 十分な休養
- バランスのよい食事
- 適度な運動
- ストレスへの上手なマネージメント
- かぜの予防（帰宅時の手洗い、うがいの励行など）
- 食中毒予防（調理・食事前の手洗いの励行、生ものや食品の取扱いの注意など）

病院での検査の結果、あなたの免疫力が落ちている場合は、このほかに日和見感染症（P7注参照）への注意が必要です。



気分が落ち込んだ時は どうすればよいですか？

HIV陽性と知ったことやその後の長期にわたるHIVとの生活を考えることで、精神的に落ち込んだり、気分が沈んだりすることは少なくありません。

漠然とした不安は、情報を整理したり、他の陽性者の経験談を参考にしたりすることなどで軽減されることもあります。ストレスを発散させるためには、例えば、友人と話をする、体を動かして汗をかく、音楽を聞くなど、自分に合った方法を見つけましょう。

アルコールでストレスを発散させる人もいますが、飲みすぎは免疫力を下げるため適量を心がけましょう。

また、ストレスをきっかけとして薬物を使用する人がいます。止められると思って始める人が多いのですが、知らない間に使用頻度や量が増え、自分でコントロールする事が不可能となり依存症という病気になります。HIVの治療だけでなく、社会生活を送ることが困難になるため、使用をしないようにしましょう。

相談できる人や相談機関をもちましよう

ストレスを完全になくすことは不可能ですが、一人で抱え込まず、話をできる人を増やしていくことや相談できる場所を確保するように心がけましょう。

また、精神的な落ち込みが続く場合は、早めに専門医療機関に相談し、治療や援助を受けることも重要です。

薬物依存で困っている時、通報されることが不安で相談をためらう方がいますが、通報されることはありません。支援者の力を借りることが、解決への近道です。保健所や保健センター、陽性者相談窓口ご連絡を入れ、相談をしましょう。(P30「相談窓口」参照)

血液が出たときやケガをしたときは どうしたらよいですか？

血液に触れることで、すぐに感染するわけではありませんので、HIVだからといって特別な対処をすることは不要です。ケガの処置で注意することは、下記に示した血液を介しての感染を予防するための一般的な方法と同様です。あらゆる感染症の予防のための方法として、通常勧められている対処をしましょう。

ケガをしたとき

まずは水道水で傷口を洗い流します。その後消毒をしますが、止血しないようなら清潔なガーゼ等で圧迫します。止血したら傷口には清潔なガーゼや絆創膏をはっておきます。血液の付いたガーゼ等は、ビニール袋に入れて口を結んでから捨てましょう。

血液がついた衣類の洗濯について

他の人の物と一緒に、普通に洗濯してかまいません。衣類に多量の血液等がついている場合は、念のために流水で洗い流してから洗濯するとよいでしょう。

「新たな10年に向けて」

1997年、肺結核で入院して、HIV感染が判明。それから早10年が過ぎました。服薬の開始は、2002年。仕事は夜勤があり、車の運転があるので、肉体的にも精神的にもタフですが、先輩陽性者から「仕事は忙しくても関係ないよ」と言われたことを励みにして続けています。

この間、なかなか良いパートナーに恵まれず、やっぱりHIVが障害かなあ、なんて思ってたことがありました。でも今のパートナーは、病気の事を抵抗なく受け入れてくれ、お互いに一生付き合いたい！そんな出会いができたのです。勿論セックスライフも充実し、日々の生活を楽しく過ごしています。HIVは、ふたりの絆を深めてくれました。そして長生きをすることを誓い合っています。

いく (40代/男性/タクシードライバー/陽性歴:10年)

日々の暮らしはどうなるの？
あなたが快適な毎日をおくるために

